

蒸気噴出に関する住民説明会における質疑応答記録

面談日：2023(R5)年9月6日

面談場所：蘭越町山村開発センター

[野村]

すみません。調査というのは、原発のゴミ処理と全く同じで、最終・・・暫定的な補完場所というところで手を挙げている自治体があって、住民が反対してるのは、「調査目的で、一時的に置くと言いながら、結局、なし崩し的に最終処分地になっちゃうんだらうな」っていうことを、みんな想定してるんですよ。

今回についても、調査研究と言いながら、その目的は地熱発電というものがタイトル。明確になってるものなので、当然、うまくいったら地熱発電所を作るという前提で、地域住民に対して、説明すべきじゃないでしょうか？

[三井石油担当者]

はい。仮に資源量が見つかった場合なんです、そこは当然、我々として、発電所の方を造りたいということで、ご説明の方、させていただくというのは、当然でございます。

[野村]

(不明) 住民にはしなかったとしても、当然、町長とか北海道には、しているはずで、「発電所作るための調査」と、「うまくいったら発電所を作る」って話は当然出てるわけで、これについては、事故が起きたから、みんな注目を浴びてるけれども、今回の事故で、当然、僕も蘭越町が主体ぐらいに思ってた、でもどうやらそうじゃない。あくまでも、主体は三井さんであることは理解してきたんですけども、当然、自治体としては、蘭越町との事前の合意、「町民の説明は行ってない」ではなくて、あなたのおっしゃった通り、調査研究で・・・調査目的と言いながら、「うまくいったら発電所を造る」っていう前提があるんであれば、当然、それはちょっとは伝わっているはずで、それを確認したいんですよ。

なんか今回の件で、「三井が悪い」「三井が悪い」と、三井ばかり悪者にしてる

ように聞こえてしょうがないんですけども、北海道も蘭越町長もね、国が押し進める事業に対して、協力体制・・・概ね協力の意思を持って、多分発電所を作るのも聞いた上で、私は同意してると思うんですよ。ちょっと町長、説明してもらえませんか？

[金町長]

蘭越町長です。

自分の思い通りの・・・思い込みだけで意見を言うのは、私はぜひ考えてほしいと、いう風に思ってます。あくまでも、地熱発電に関しては、調査です。それをニセコ町と蘭越町と協議会を作って、そして、いろんな団体も入ってもらって、それを進めるという調査の推進、推進というか、勉強会を今やって、実際に三井さんがやってるんです。それを、自分の思い込みで合意されて、発電所を作るとか、そういうことは、一切、三井さんは「やる」って言ってないんですよ。

[野村]

発電所を作るための補助金なんですよ。

[金町長]

いや、それだけでも、三井さんは「そうではない」って言ってるじゃないですか。ですから、町も三井さんと、そういうことを合意は一切してません。